

安全データシート

改訂日:2022年3月25日

1. 化学品及び会社情報	
化学品の名称(製品名)	1-オクタノール
会社名	米山薬品工業株式会社
住所	大阪市中央区道修町2丁目3番11号
電話番号	(06)6231-3555(大阪・本社) (03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田) (052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
整理番号	AE0106
2. 危険有害性の要約	
GHS分類	
物理化学的危険性	引火性液体:区分4
健康に対する有害性	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性:区分2A 特定標的臓器・全身毒性:区分1(呼吸器) (単回暴露) 区分2(消化器)
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性):区分2 水生環境有害性 長期(慢性):区分3
GHSラベル要素	
絵表示又はシンボル	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	可燃性液体 強い眼刺激 呼吸器の障害 消化器の障害のおそれ 水生生物に毒性 長期継続的影響によって水生生物に有害
注意書き	【安全対策】 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 取扱い後は手などをよく洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 環境への放出を避けること。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 【応急措置】 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の連絡をすること。 眼の刺激が続く場合、医師の診断/手当を受けること。 火災の場合、消火するために適切な消火剤を使用すること。 【保管】 換気の良い冷所で保管すること。 施錠して保管すること。 【廃棄】 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
3. 組成、成分情報	
化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名又は一般名	1-オクタノール
別名	n-オクチルアルコール、n-カプリルアルコール
化学式	CH ₃ (CH ₂) ₆ CH ₂ OH
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS RN:111-87-5
濃度又は濃度範囲(含有率)	90%以上
官報公示整理番号(化審法/安衛法)	(2)-217
4. 応急措置	
吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 医師の診断、手当を受けること。
皮膚に付着した場合	皮膚に付着した場合 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当を受けること。 目に入った場合 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼に入った場合	眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当を受けること。

飲み込んだ場合	飲み込んだ場合 口をすすぐこと。 無理に吐かせないこと。 直ちに医師に連絡すること。
5. 火災時の措置 適切な消火剤 使ってはならない消火剤 火災時の措置に関する特有の危険有害性	泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類 棒状放水、水噴霧 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。 下水溝に流れ込むと火災、爆発の危険がある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。 消火水は汚染を引き起こすおそれがある。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
特有の消火方法	移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
6. 漏出時の措置 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、 眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 全ての着火源を取り除く。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 風上に留まる。 密閉された場所に立入る前に換気する。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 環境中に放出してはならない。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 危険でなければ漏れを止める。 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法及び機材	環境中に放出してはならない。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 危険でなければ漏れを止める。 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い 技術的対策(局所排気、全体排気) 安全取扱い注意事項	局所排気、全体換気を行う。 使用前に使用説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 熱、火花、裸火のような着火源から遠ざけること。一禁煙。 取扱い後はよく手を洗うこと。 眼に入れないこと。 飲み込みを避けること。 皮膚との接触を避けること。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 環境への放出を避けること。 強酸化剤 取り扱い後はよく手を洗うこと。
接触回避 衛生対策	強酸化剤 取り扱い後はよく手を洗うこと。
保管 安全な保管条件	強酸化剤から離しておくこと。 炎及び熱表面から離して保管すること。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 施錠して保管すること。
安全な容器包装材料	ガラス
8. 暴露防止及び保護措置 許容濃度(出典) 管理濃度 日本産業衛生学会 ACGIH 設備対策	未設定 未設定 未設定 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。
保護具 呼吸用保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具 特別な注意事項	防塵マスク又は簡易防塵マスクを着用する。 ゴム手袋を着用する。 ゴーグルを着用する。 作業着を着用する。 該当情報なし。
9. 物理的及び化学的性質 物理状態 色	液体 無色

臭い	特異臭
融点・凝固点	-17~-16°C
沸点、初留点及び沸騰範囲	194~195°C
可燃性	可燃性
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	0.2 - 30vol% (空气中)
引火点	81°C (Closed Cup)
自然発火温度	245°C
分解温度	該当情報なし。
pH	該当情報なし。
動粘性率(粘度)	9mPa・s (20°C)
溶解度	水: 541mg/L
n-オクタノール/水分分配係数	logPow=3
蒸気圧	0.1mmHg (25°C)
密度及び/又は相対密度	0.827 (20/4°C)
相対ガス密度	4.5 (空気=1) (20°Cでの蒸気/空気混合気体の相対密度)
蒸発速度	該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
反応性	酸化剤と反応する。
化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	81°C以上では、蒸気、空気の爆発性混合気体を生じることがある。
避けるべき条件	日光、熱
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素
11. 有害性情報	
急性毒性	Priority 1のデータであるラットを用いた経口投与試験 (DFGOT vol.20 (2001)) のLD50値、>5,000 mg/kgより区分外とした。 経皮、吸入についてはデータが無い為分類できない。又は対象外。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ウサギ3匹の皮膚に本物質原液0.5 mLを4時間にわたり半閉塞適用した試験 (OECD TG404: GLP準拠)において、24、48、72時間の観察による3匹の平均スコアは紅斑が1.0、2.0および1.3、浮腫は全て0であり、軽度の刺激性 (slightly irritating) との評価結果 (SIDS (2006)) に基づき、JIS分類基準の区分外 (国連分類基準の区分3に相当) とした。なお、ウサギの皮膚に本物質の原液または50%溶液を24時間閉塞適用した別の試験では、刺激性指数が原液で4.3/8、50%溶液で2.8/8となり、中等度の刺激性と報告されている (有害性評価書 Ver.1.0, (2008))。 さらに、ヒトでは2試験所のボランティア27人および28人に対して本物質0.2 mLを上腕部へ4時間閉塞適用した結果、24、48、72時間後の観察で各一4/27人、5/28人にわずかに皮膚刺激の陽性反応がみられたものの、刺激性物質に該当しないと判断されている (有害性評価書 Ver.1.0, (2008))。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ウサギ2匹の眼に本物質原液0.1 mLを適用した試験 (OECD TG405、GLP) において、適用後72時間で虹彩炎、軽度~中等度の結膜炎、軽微~軽度の角膜混濁を生じ、軽微な結膜炎が8~15日に3匹全例に観察され、うち2匹は22日の観察期間終了時まで、また、1匹は虹彩炎が22日まで持続し、刺激性あり (irritating) と評価された (SIDS (2006))。また、ウサギを用いほぼ同じ条件で実施された別の試験 (OECD TG405、GLP) では、24、48、72時間の観察による3匹の平均スコアが角膜1.7、虹彩0.7、結膜(発赤)2.2、結膜(浮腫)2.5となり、刺激性の総合スコアであるMMAS (AOIに相当) が41.0と報告されている (SIDS (2006))。以上の結果に基づき、区分2Aとした。なお、ヒトでは化学工場の作業者の眼に入った労働災害事故で、角膜上皮に一過性の傷害をもたらしたが、48時間後には回復した (有害性評価書 Ver.1.0, (2008)) との報告がある。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	データ無し。(分類できない)
生殖細胞変異原性	ラットに腹腔内投与による骨髄細胞を用いた染色体異常試験 (体細胞 in vivo 変異原性試験) で陽性 (有害性評価書 Ver.1.0, (2008)) の報告があるが、投与量不明、かつ1用量のみ結果であり、用量依存性に関するデータはないと記載されていることから、分類根拠として不十分とみなされるため「分類できない」とした。別に同一著者らによるラットに経口投与した染色体異常試験でも染色体異常の増加が示唆されたが、方法論的欠陥を含む試験のため結果は曖昧である (ambiguous) と結論付けられている (SIDS (2006))。なお、in vitro試験としては、エームス試験で陰性 (SIDS (2006))、チャイニーズハムスター肺線維芽細胞 (V79) を用いた染色体異常試験ではS9無添加では陽性 (有害性評価書 Ver.1.0, (2008)) の報告がある。
発がん性	データ無し。(分類できない)
生殖毒性	生殖・発生毒性試験において、ラットの妊娠6~15日に経口投与した試験で、母動物に死亡、摂餌量の減少および体重増加抑制等の一般毒性がみられたが、母動物および胎児には生殖・発生に関する影響はみられず (有害性評価書 Ver.1.0, (2008))、また、ラットの妊娠1~19日に吸入ばく露した試験では、母体および胎児とも影響がみられなかった (有害性評価書 Ver.1.0, (2008))。以上の結果から、仔の発生に対する悪影響は確認されなかったが、性機能および生殖能に及ぼす影響については明らかではなく、データ不十分のため「分類できない」とした。

特定標的臓器毒性(単回暴露)	ラットに5.6 mg/L(蒸気)を4時間吸入ばく露した試験で、喘ぎまたは呼吸促進が観察され10匹中3匹が死亡、ばく露に関連する剖検所見は肺に限定され、顕微鏡的病変としては気管支上皮の壊死、肺胞水腫、うっ血、肺胞出血、気管支上皮の変性および肺胞の過形成が認められており(SIDS(2006))、この濃度はガイダンス値区分1に相当することから、区分1(呼吸器)とした。
特定標的臓器毒性(反復暴露) 誤えん有害性	また、ウサギに1~4 g/kgを24時間経皮投与により、ほとんど全例で全身脱力と不活発がみられ、2 g/kg以上で死亡例が発生、剖検で胃粘膜の白色化と多発性巣状出血、水状の腹膜液等が観察され、生存例でも胃粘膜の多発性巣状出血と腹腔内に透明琥珀色の粘液の蓄積がみられた(SIDS(2006))。この胃および腹腔内の異常所見はガイダンス値区分2の用量範囲であることから、区分2(消化器)とした。 データ無し。(分類できない) 本物質0.2mLをラットに吸引させた結果、数回の呼吸後に10匹中10匹が死亡したことは、本物質の誤えん有害性を示すものである(SIDS(2006))と報告されている。また、本物質は炭化水素ではないが、20°Cにおける動粘性率は10.84(mm ² /s)であり、40°Cでは14 mm ² /s以下となることから、国連分類基準では区分2に該当するが、ヒトに関する情報がなく、JIS分類基準では区分2を使用しないため「分類できない」とした。
12. 環境影響情報 生態毒性	短期(急性): 甲殻類(Ceriodaphnia dubia)の48時間EC50 = 4.17 mg/L(環境省リスク評価第5巻, 2006)であることから、区分2とした。 長期(慢性): 急速分解性があり(良分解性(4週間でのBODによる分解度:89%)(既存点検, 2002))、魚類(ファットヘッドミノー)の7日間NOEC = 0.75 mg/L(NITE初期リスク評価書, 2008)であることから、区分3とした。
残留性・分解性 生体蓄積性 土壌中の移動性 オゾン層への有害性	該当情報なし。 該当情報なし。 該当情報なし。 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意 化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意 国連番号 品名(国連輸送名) 国連分類 容器等級 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策 国内規制がある場合の規制情報 陸上輸送 海上輸送 航空輸送 応急措置指針番号	— — — — 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 重量物を上積みしない。 消防法の規定に従う。 船舶安全法の規定に従う。 航空法の規定に従う。 —
15. 適用法令 化学物質管理促進法(PRTR法) 毒物及び劇物取締法 労働安全衛生法 消防法 化審法 大気汚染防止法 海洋汚染防止法	第1種指定化学物質(1-オクタノール) 毒物及び劇物に該当しない 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物[1-オクタノール][施行令別表9](2025年(令和7年4月1日)以降) 危険性又は有害性を調査すべき物[1-オクタノール](2025年(令和7年4月1日)以降) 危険物第4類第3石油類非水溶性液体 優先評価物質(1-オクタノール) 揮発性有機化合物 有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1) 有害液体物質(Y類同等の物質)(環境省告示)
16. その他の情報 参考文献	職場の安全サイト(厚生労働省) NITE-CHIRIP(製品評価技術基盤機構HP) 16615の化学商品(化学工業日報社)

その他

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。